



平成22年9月27日

アルコール飲料で発生する意外な事故に注意！
～急性アルコール中毒だけではないアルコール飲料の危険～

これからの季節、食欲の秋を迎え、飲酒する機会も増えてきます。しかし、アルコール飲料は急性アルコール中毒以外にも思わぬ事故に至る危険性があり、十分注意する必要があります。

東京消防庁管内では、平成17年4月から平成22年8月までに、アルコール飲料によるやけど・誤飲事故で40人が医療機関に救急搬送されています。

こうした事故は、秋から冬にかけて多く発生していることから、当庁では注意を呼びかけています。

- 秋から冬にかけて多く発生！
- アルコール飲料によるやけどの約4割が入院を伴う中等症！
特に、アルコール飲料が体に付着した状態で喫煙した際に、ライター等の炎が引火してやけどを負った場合には、4割以上が入院を伴う中等症となっている。
- アルコール飲料の誤飲は、1歳から3歳までの乳幼児に多く発生！
酒類の誤飲は、1歳から3歳までの乳幼児が半数以上を占めている。
また、アルコール飲料の誤飲は、アルコール飲料と清涼飲料の液体の色や容器が類似していることが原因の多くを占めている。

詳細は、添付資料をご覧ください

東京消防庁では、アルコール飲料に係る救急事故の発生状況を注視し、注意を促すなど、都民の安全確保に努めてまいります。

問い合わせ先

東京消防庁 (代) 電話 3212 - 2111
生活安全課生活安全係 内線 4206
広報課報道係 内線 2345～2349

資料

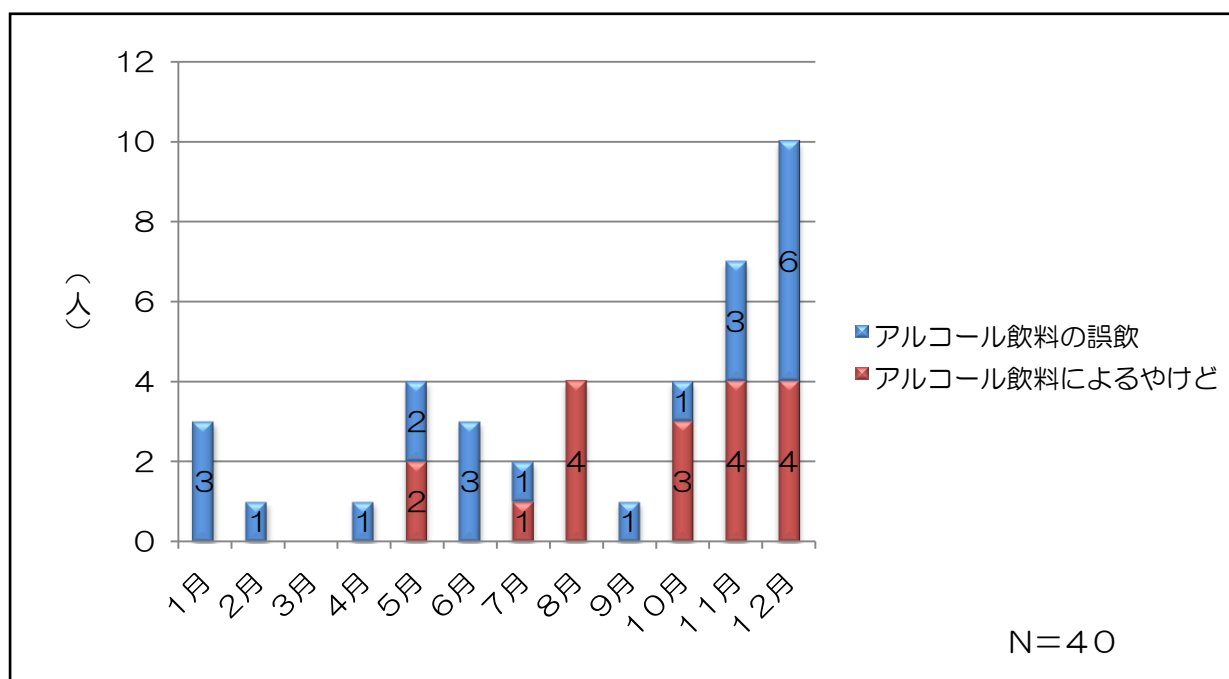
アルコール飲料によるやけど・誤飲事故の発生状況

平成17年4月から平成22年8月までに、東京消防庁管内（東京都のうち東久留米市※、稲城市、島しょ地区を除く地域）で発生した、アルコール飲料に起因したやけど・誤飲事故の発生状況については次のとおりである。

※ 東久留米市については、平成22年4月1日から東京消防庁管内となった。

1 月別の発生状況

秋から冬にかけて増加傾向にある。



2 アルコール飲料によるやけど

(1) 年齢別・負傷程度別の発生状況

アルコール飲料に起因するやけどは、18人が救急搬送されており、年齢別では20歳代が13人（72.2%）と多くを占めている。

(単位：人)

年齢	軽症	中等症	計
10歳代	1	1	2
20歳代	8	5	13
30歳代	1	—	1
50歳代	1	—	1
60歳代	—	1	1
計	11	7	18

(凡例)・中等症：生命の危険はないが、入院の必要があるもの

・軽症：入院の必要がないもの

(2) 原因別・負傷程度別の発生状況

アルコール飲料に起因するやけどは、アルコール飲料に火を点け炎を觀賞している際や、アルコール成分を飛ばして香りを楽しむ行為の際や、アルコール飲料が体に付着した状態であるのに喫煙しようとしてライターなどで火を点けた際に発生している。

原因別では、觀賞や香りを楽しんだりするため、「アルコール飲料に火をつけた際に炎が体に接触」が11人（61.1%）と多くを占め、それ以外は、「アルコール飲料が体に付着した状態で喫煙」した際の引火によるものが7人（38.9%）となっている。

アルコール飲料によるやけどの18人中7人（38.9%）が中等症で、特に、「アルコール飲料が体に付着した状態で喫煙」では、42.9%と高い割合となっている。









事故に至ったアルコール飲料は、不明の6人を除き12人がウォッカやウイスキーなどのアルコール度数の高いものであった。

（単位：人）

原因	軽症	中等症	計
アルコール飲料に火をつけた際に炎が体に接触	7	4	11
アルコール飲料が体に付着した状態で喫煙	4	3	7
計	11	7	18

3 高濃度のアルコール飲料に火を接近させる実験

高濃度のアルコール飲料をこぼして手に付着した状態のままライターの火を接近させた場合にどのようなことになるかを実験した。実験結果は以下のとおりであり、危険性が実証できた。

①高濃度のアルコール付着	②ライターの炎を接近	③着火の瞬間
		
<p>高濃度のアルコールを飲んで いる際に手にこぼしたと いう想定で実験を開始</p>	<p>通常アルコールの可燃性蒸気 は空気より重いため下方に集 まるが付着した手の上あたり に炎を接近させた</p>	<p>手の上あたりに炎を接近させ た場合でも1秒程度で着火し た</p>
④着火から1秒後	⑤着火から1.5秒後	⑥着火から2秒後
		
<p>手が青白い炎で包まれた</p>	<p>十分視認できるほど炎に包ま れている。また、テーブル上 も青い炎が出現し始めてい る。</p>	<p>2秒でこの状態にまで至る。</p>
⑦着火から2.5秒後	⑧着火から3秒後	
		
<p>手が赤い炎で包まれてい る。</p>	<p>洋服にも燃え移り始めてい る。この後、消火のため霧状 の水を吹きかけたがなかなか 消えなかった。</p>	

4 アルコール飲料の誤飲

(1) 年齢別・負傷程度別の発生状況

アルコール飲料の誤飲では、22人が救急搬送されており、年齢別では、1歳から3歳までが、12人（54.5%）と半数以上を占めている。

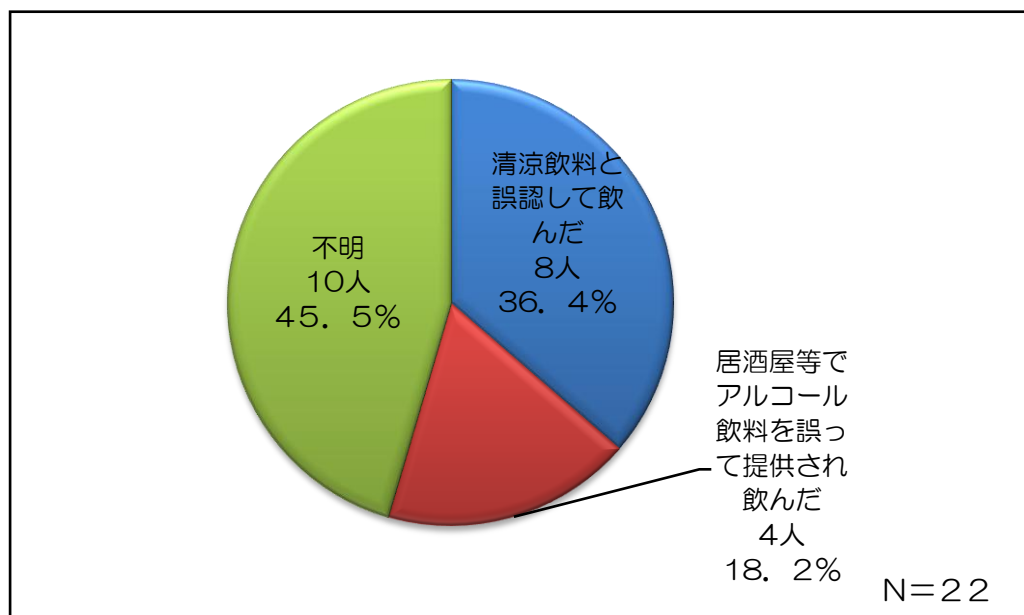
（単位：人）

年齢	軽症	中等症	計
0歳	1	—	1
1歳	5	—	5
2歳	2	1	3
3歳	4	—	4
4歳	2	—	2
5歳	2	—	2
6歳	1	—	1
7歳	1	—	1
10歳	1	—	1
20歳代	1	—	1
60歳代	—	1	1
計	20	2	22

(2) 原因別の発生状況

アルコール飲料の誤飲は、アルコール飲料と清涼飲料の液体の色や容器が類似しているため清涼飲料と誤認して飲んだり、店舗の陳列棚からアルコール飲料を誤って購入して子供に与えたり、居酒屋等でアルコール飲料を誤って提供され飲んだ場合などに発生している。

原因別では、「清涼飲料と誤認して飲んだ」が8人（36.4%）と最も多く、次いで「居酒屋等でアルコール飲料を誤って提供され飲んだ」が4人（18.2%）となっている。



5 原因別の主な事例

原因	内容
アルコール飲料が体に付着した状態で喫煙 やけど	27歳男性が、テキーラを飲酒中に、体表にテキーラが付着した状態で、タバコを吸おうと思いライターで火を点けたところ、突然炎が上がりやけどを負った。 (27歳男性 中等症)
アルコール飲料に火をつけた際に炎が体に接触 やけど	67歳男性が、ウイスキーの入ったグラスに火をつけて飲もうとグラスを傾けたところ、炎が大きくなり顔面にやけどを負った。 (67歳男性 中等症)
清涼飲料と誤認して飲んだ 誤飲	子供に清涼飲料だと思って購入した飲み物を、風呂上りに飲ませたところ顔が赤くなり、呼吸も荒くなったため、確認したところアルコール飲料であった。 (4歳男児 軽症)
居酒屋等でアルコール飲料を誤って提供され飲んだ 誤飲	家族で居酒屋に来て、子供達にレモンスカッシュを注文したところ、誤ってアルコール入りの飲み物を出され、娘が飲んでしまった。 (3歳女児 軽症)

6 事故防止のポイント

- (1) アルコール飲料が手等に付着した場合には、すぐに拭き取るか洗い流すなどして、付着した状態のまま裸火に近づけない。
- (2) ウオッカやウイスキーなどのアルコール度数の高いアルコール飲料は、火気には十分注意するとともに、火を点けての飲酒などの危険な行為はしない。
- (3) 店舗によっては、アルコール飲料と清涼飲料の売り場が接近しているところもあることから、購入時には十分確認する。また、家庭内で保存する際には、アルコール飲料は子供の手の届かないところに保存する。
- (4) アルコール飲料を提供する店等で、子供の清涼飲料などを一緒に注文した場合などには、事前に確認してから子供に与える。

東京消防庁
救急相談センター

#7119 (携帯電話・PHS
プッシュ回線)

24時間年中無休

救急相談・医療機関案内

その他の電話やつながらない場合は
03-3212-2323(23区)
042-521-2323(多摩地区)

急な病気やケガをした場合に、「救急車を呼んだほうがいいのかな?」「今すぐ病院に行った方がいいのかな?」など迷った際の相談窓口として、「東京消防庁救急相談センター」を開設しています。